

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)																																																																																																					
						□指標に係る取組状況	70% 以上 達成 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 以上 達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策																																																																																																
3	確かな 学力 基礎・基 本の定 着と主 体的・対 話的で 深い学 びの実 現	★ 継続	学習内容の 確実な定着 を図り、基 礎・基本の学 力、活用力を 身につける。 課 □	「分かつタイム」を毎月、チャ レンジプリント (国・算・理)を 毎日実施する。	国・算・理の 単元末テスト で70%以上 の児童の割合 を85%以上	<p>①【学力補充時間「わかつタイム」】 □現在9回実施 延べ527人の児童が 参加した。各学年で重点目標を決め、全 員ができるまで個別指導を行った。</p> <p>②【チャレンジプリントの実施】 □昨年度の復習と1学期の学習内容に取り 組み、定着状況をアタックテスト及び漢 字検定で確認した。 アタックテストの全校平均 国語 87% 算数 85% 理科 85% 3教科の平均 86% 漢字(平仮名)検定の全校平均 84%</p> <p>③【国・算・理の単元末テストで70%以上 の児童の割合】</p> <table border="1"> <tr><td>国語</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>93</td><td>90</td><td>77</td><td>87</td><td>88</td><td>93</td><td>87.9</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>算数</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>92</td><td>79</td><td>84</td><td>87</td><td>88</td><td>81</td><td>85.2</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>理科</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>—</td><td>—</td><td>90</td><td>86</td><td>95</td><td>80</td><td>88.0</td></tr> </table> <p>□達成した児童数の割合は、 国語 87.9%、算数 85.2%、理科 88% 全体平均は 87%。(進捗率 102%)</p>	国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	93	90	77	87	88	93	87.9	算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	92	79	84	87	88	81	85.2	理科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	—	—	90	86	95	80	88.0	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 既習学習で定着率 が低かった単元 にしばり、チャレ ンジタイムや「分 かつタイム」で取 り組んでいく。 	<p>①【学力補充時間「わかつタイム」】 □現在まで、21回実施 延べ1069人参加。市立大生も入っての 指導体制により、一人一人細かな指導が可能となった。 □学期末には、学年毎に重点課題を設定し、取組の強化を図った。</p> <p>②【チャレンジプリントの実施】 アタックテストの全校平均 国語 84% 算数 85% 理科 87% 3教科の平均 85.3% 漢字(平仮名)検定の全校平均 85%</p> <p>③【国・算・理の単元末テストで70%以上の児童の割合】</p> <table border="1"> <tr><td>国語</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>96</td><td>89</td><td>82</td><td>79</td><td>91</td><td>86</td><td>87.2</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>算数</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>93</td><td>88</td><td>90</td><td>79</td><td>78</td><td>79</td><td>84.6</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>理科</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>達成</td><td>—</td><td>—</td><td>81</td><td>88</td><td>91</td><td>94</td><td>88.4</td></tr> </table> <p>達成した児童数の割合は、国語 87.2% 算数 84.5% 理科 88.4% 全体平均は、86.7% (進捗率 102%)</p> <p>総合評価指標(最終) 1月実施の標準学力調査の結果(全国平均と比較) 国語(5/6学年達成) 算数(3/6学年達成) 理科(4/4学年達成) 達成率 75%</p>	国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	96	89	82	79	91	86	87.2	算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	93	88	90	79	78	79	84.6	理科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成	—	—	81	88	91	94	88.4	4	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、算数に課題。残りの期 間は特に不得手な学習内容を重 点的に取り組む。 今学期末も学年毎の重点課題を 算数に特化して設定し、取り組 む。
国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	93	90	77	87	88	93	87.9																																																																																																							
算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	92	79	84	87	88	81	85.2																																																																																																							
理科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	—	—	90	86	95	80	88.0																																																																																																							
国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	96	89	82	79	91	86	87.2																																																																																																							
算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	93	88	90	79	78	79	84.6																																																																																																							
理科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																							
達成	—	—	81	88	91	94	88.4																																																																																																							
			授業の中でめあて に迫るための大切 な学習用語を使 い、自分の考えを 表現する場(ペア 学習、グループ学 習における学び合 い)を設ける。	授業の中でめあて に迫るための大切 な学習用語を使 い、自分の考えを 表現する場(ペア 学習、グループ学 習における学び合 い)を設ける。	理科・生活科 の単元末に活 用問題を実施 し、必要な学 習用語を落と さずに書ける 児童の割合 75%	<p>①【必要な学習用語を落とさずに書ける児童の 割合】</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>70</td><td>59</td><td>41</td><td>60</td><td>85</td><td>88</td><td>67</td></tr> </table> <p>正答率67%。(進捗率89%)</p> <p>□学習(理科)用語を活用して、順序立てて説 明したり、結果だけでなく、その根拠も含め て説明したりする児童が増えてきた。</p> <p>②「授業にペア及びグループ学習のねらいを児 童におさえた授業展開」は、実施率96% □意図を持ったペア・グループ活動を仕組 む展開が増え、深まる授業が増えてきた。</p> <p>③「単元ごとの学習用語を事前に学年で確 認し、記録に残す」は、実施率100% □大切な学習用語を事前に確認すること で、指導する内容を明確にすることがで きた。</p>	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	70	59	41	60	85	88	67	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き授業の中 で学習用語にこた わり切り返しや、 多くの児童の発言 をつなげるなど、 自分の考えを表現 させきる場を設定 していく。 模範解答を提示し、 どのような解答が 書けるようになれ ばよいか、児童に イメージを持たせ る。 今後も記録を継続 し、次年度にも活 用できるように 一覧表に仕上げ る。 	<p>①【必要な学習用語を落とさずに書ける児童の割合】</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>55</td><td>59</td><td>61</td><td>58</td><td>61</td><td>45</td><td>59</td></tr> </table> <p>正答率59%。(進捗率79%)</p> <p>□授業の中で学習(理科)用語を活用してまとめを書く児童は増え てきたが、実際に問題を解く際に適切な文章で説明できる児童は 少ない。</p> <p>②【授業にペア及びグループ学習のねらいを児童におさえた授業展開】 教職員のアンケート結果から 実施率91%(進捗率91%) □ペア・グループ活動を仕組むことで児童に発言の場を多く もたせることができた。</p> <p>③【単元ごとの学習用語を事前に学年で確認し、記録に残す】 教職員アンケート結果から 実施率91%(進捗率91%) □大切な学習用語を事前に確認することで、指導する内容を 明確にすることができた。</p>	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	55	59	61	58	61	45	59	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き授業の中で学習用語にこた わり、切り返し発問を行っていくと ともに、学習用語の入ったまとめを 全員で共有し書きさせる。 学んだ学習用語を進んで授業で活用 できるようにする。 文章力を高めるために、授業の中で 自分の考えを書いて説明する機会 を増やしていく。 ペア・グループ活動での話し合いの 目的を児童と共有してから行うこ とで、より考えを深める活動につな げていく。 今年度の記録を活用しながら、来年 度も記録を継続していく。 																																																																					
1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																								
70	59	41	60	85	88	67																																																																																																								
1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																																																								
55	59	61	58	61	45	59																																																																																																								

3	豊かな心 規範意識や自己有用感を育成する	★継続	9年間を見通した生徒指導の充実を図り、規範意識を高める。 【課】 自己有用感を高め、認め合い、高め合う児童を育てる。☐ 園 ☐ や	「旭小学校のきまり」を守ることができるように児童会による児童自治を行い、児童主体の目標設定を毎月行う。 自分のよいところを見つけ、友だちのがんばりやよいところを認め合う場を帰りの会にすべての学級で取り込む。 旭小プロを目指し、児童一人一人が得意なことを1つでもよいから1年間通して行わせ、全員表彰する。	毎月の自己振り返りで90%以上守れる児童が100%。 自分のよいところを1つ以上言える児童100%。友だちのよいところを5人言える児童100% 実施率100%	①児童主体の目標設定は100%実施。 児童会を中心に、学校の課題を意見し合い、月毎に目標を設定し、ふり返りもしている。 ②【きまりを守っている肯定的評価の割合】 <table border="1" data-bbox="854 279 1288 342"> <tr><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>100</td><td>94</td><td>96</td><td>93</td><td>90</td><td>91</td><td>94</td></tr> </table> 決まりを守る児童 94% ③【自分のよいところ・友だちのよいところを見つけることができるアンケート結果の割合】 <table border="1" data-bbox="854 678 1288 741"> <tr><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>97</td><td>80</td><td>85</td><td>91</td><td>98</td><td>91</td><td>90</td></tr> </table> よいところ見つけ 90% <input type="checkbox"/> 帰りの会に認め合う場を全学級設定しており、「ほめほめシャワー」「シールで見える化」等、工夫した取組みを行っている。 ④旭小プロの目標を、100%の児童が持つことができた。 <input type="checkbox"/> 現在、玄関に全校の目標を掲示し、各自が意識できるようにしている。 (例)・読書プロ ・挨拶プロ ・スマイルプロ ・自律プロ ・努力プロ ・実験プロ 等 総合評価指標(中間) 年間30日以上の欠席者率 0.4%	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	100	94	96	93	90	91	94	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	97	80	85	91	98	91	90	3 3	<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成評価について教師のコメントを確実にを行い、成果と課題を明確にする 児童朝会での生徒指導主事の話を受けて、全学級で統一した指導を行うようにする。 お互いの良いところを認め合う場を設定している学級が90%なので、全学級で毎日短時間でも取り組むようにする。 プロになる取組の進捗状況をプロ宣言の名前の下にシールで表すことにする。(1枚20%)5枚で100%達成となる。2月末には全員100%を目指し、月ごとに進捗状況を確認したり報告したりする機会をもつ。 	①【児童主体の目標設定】 100%実施 <input type="checkbox"/> 2月は、個々の目標と達成度を班や学級全体で交流する取組を実施中。 ②【きまりを守っている肯定的評価】 96.4% <table border="1" data-bbox="1647 279 2335 342"> <tr><th>学年</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>評価の割合</td><td>100</td><td>94</td><td>91</td><td>100</td><td>95</td><td>100</td><td>96.4</td></tr> </table> <input type="checkbox"/> 中間評価よりも肯定的評価が2.4%上がっている。理由として、児童朝会で「きまり」についての全体指導があった後、各学級での指導が確実に行われることが増えたからだといえる。 (教職員の「きまり」を意識して守らせる肯定的評価100%) <input type="checkbox"/> そのような雰囲気の中、きまりを守り、気持ちよく生活をしようとする児童も増えてきていると分析できる。 ③【自分のよい所・友だちのよい所を見つけることができる肯定的評価】 95.6% <table border="1" data-bbox="1647 678 2335 741"> <tr><th>学年</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>評価の割合</td><td>97</td><td>96</td><td>91</td><td>95</td><td>98</td><td>94</td><td>95.6</td></tr> </table> <input type="checkbox"/> 中間評価より5.6%上がっている。帰りの会で、互いの頑張りや認め合う機会を全クラスが設け、積極的に実施した成果が出てきたといえる。 ④【旭小プロの目標】 100%達成した児童68.8% <input type="checkbox"/> 約3割の児童が、あともう少しの段階にきている。教師による声かけや、学級での取り組みなどの工夫をして、修了式までの100%達成を目指す。 総合評価指標(最終) 年間30日以上の欠席者率 3/257 1%	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	評価の割合	100	94	91	100	95	100	96.4	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	評価の割合	97	96	91	95	98	94	95.6	4 4 3	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も児童会を中心に目標を全校児童で共有し、実施する。 教科「道徳」との関連をさせて「きまりを守る」ことが互いの生活をよりよくしていくことを理解させ、実施させる。 来年度も継続。日常の生活でもプラスの言葉がけを増やす取組に発展させる。 4月から年間の見通しを持って取組ませるようにする。
1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																	
100	94	96	93	90	91	94																																																																	
1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																	
97	80	85	91	98	91	90																																																																	
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																
評価の割合	100	94	91	100	95	100	96.4																																																																
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																																
評価の割合	97	96	91	95	98	94	95.6																																																																
3	健康・体力づくりの推進	★継続	運動に意欲的に取り組み、目標を持って体力づくりをする児童を育てる。☐ 課 ☐ や 【総合評価指標】2回目実施の体力テスト県平均以上の項目を85%以上	毎時間の体育授業で、セット運動(ランニング3周→サーキット運動、キャッチボール、ランニング3周→体操ストレッチ)を取り入れる。 新体力テスト成績優秀者に表彰を行い、体力向上に向けての意欲をもたせる。	実施率100%	①毎時間の体育授業でセット運動を取り入れることができた。 実施率100% <input type="checkbox"/> セット運動の一連にキャッチボールの活動を取り入れることで、投力のアップにつなげることができた。 ②新体力テストの成績優秀者には、結果が届き次第表彰を行う。 【今年度の新体力テスト個人評価の割合】 <table border="1" data-bbox="854 1623 1288 1686"> <tr><th>判定</th><th>A判定</th><th>B判定</th></tr> <tr><td>割合(%)</td><td>19</td><td>35</td></tr> </table> 総合評価指標(中間) 新体力テスト県平均以上の種目の割合 62.5%	判定	A判定	B判定	割合(%)	19	35	3 3	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくり走の期間をのばし、体力向上や意欲の向上を図る。 表彰する際、児童朝会等、全校の前で行い、受賞者には自信を持たせるとともに、周囲の児童の向上心も高めさせる。 	①【体育授業のセット運動の取り入れ】 実施率100% <input type="checkbox"/> 体力テストの練習期間やマラソン大会などの行事のため実施できない日があった。実施可能な日は、全学級実施。 ②新体力テストの成績優秀者には、結果が届き次第表彰を行う。 総合評価指標(最終) 2回目の新体力テスト県平均以上の種目の割合 上体起こし、長座体前屈、50m走、反復横跳びの4種目を再測定 5月62.5%→1月81.0%(進捗率95%)	4 3 3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き体育の授業でセット運動に取組み課題改善に努める。 ロングタイムの休憩時間を検討していくと同時に、休み時間の外遊びを喚起する取組を考えていく。 																																																						
判定	A判定	B判定																																																																					
割合(%)	19	35																																																																					

3	<p>市民から信頼される学校</p> <p>保護者・地域に愛される学校づくりの推進</p>	<p>継続</p> <p>積極的に情報発信を行い、保護者・地域住民の学校満足度を高める。</p>	<p>学校、学年、保健通信を月1回以上、学級通信を月2回以上発行する。学年の様子を月1回以上、児童の様子を月4回以上HPで発信する。</p>	<p>実施率100%</p>	<p>年に4回以上参加</p>	<p>①学校、学年、保健通信月1回以上発行は、100% 学級通信月2回以上発行は、実施率92%</p> <p>【学年ごとの通信の枚数】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>特支</td> </tr> <tr> <td>学年</td> <td>27</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>学級</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>②HPで学年の様子を月1回以上発信は、100%達成。児童の様子を月4回以上HPで発信するについては、表の通り。</p> <p>【HPで発信回数】 実施率100%</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>月</td> <td>4月</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>行事HP</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5.8</td> </tr> </table> <p>③現時点で、平均8回の参加状況である。(進捗率100%以上)</p> <p>□夏祭り・地域清掃・旭水泳等、地域行事に積極的に参加し、地域・保護者との結びつきを深めている。</p> <p>総合評価指標(中間) 【保護者アンケートの結果】(7月実施)</p> <p>①楽しく学校に行っていますか・・・95% ②相談しやすい雰囲気・・・・・・・・・・87% 平均92%</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	学年	27	10	6	6	9	13	10	学級	—	21	22	28	27	—	—	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均	行事HP	6	4	6	11	3	5	5.8	<p>3 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信は、タイムリーな情報を定期的に発信できるような実施する一質の向上 今後も児童のがんばり等、良い場面を発信することを心掛ける。 児童及び保護者とのつながりが深まる参加体制をとる 保護者からの相談や依頼に、丁寧且つ早急な対応をすることを継続する。 	<p>①【通信の発行回数】</p> <p>□学校、学年、保健通信は月1回の発行を達成した。特に学校行事後、インフルエンザの予防等、タイムリーな内容を伝えることができた。</p> <p>学年ごとの通信 <1月末現在></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td>6年</td> <td>特支</td> </tr> <tr> <td>学年</td> <td>42</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>学級</td> <td>—</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>44</td> <td>40</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>②【HPの通信回数】</p> <p>□学年ごとに学年の様子を発信する取組は、全学年 100%実施</p> <p>タイムリーな情報を写真付きで発信することができた。</p> <p>HP発信回数 <1月末現在></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>発信回数</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7.8</td> </tr> </table> <p>③【地域行事への参加】</p> <p>平均9回の参加状況(進捗率100%以上)</p> <p>□地域のとんど祭りでは、3年生を中心に「練り歩き」や「とんど焼き」に参加し、地域・保護者との結びつきを深めた。</p> <p>総合評価指標(最終) 【保護者アンケートの結果】(1月実施)</p> <p>①楽しく学校に行っていますか・・・95% ②相談しやすい雰囲気・・・・・・・・・・87% 平均92%(進捗率102%)</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	学年	42	20	15	16	15	20	18	学級	—	32	33	44	40	—	—	月	10月	11月	12月	1月	平均	発信回数	5	11	8	7	7.8	<p>4 4 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年及び学級によって発行枚数に差が見られる。 保護者が望む必要な情報や知りたい内容をキャッチし、適切な時期に通信として発行する。
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支																																																																																
学年	27	10	6	6	9	13	10																																																																																
学級	—	21	22	28	27	—	—																																																																																
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均																																																																																
行事HP	6	4	6	11	3	5	5.8																																																																																
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支																																																																																
学年	42	20	15	16	15	20	18																																																																																
学級	—	32	33	44	40	—	—																																																																																
月	10月	11月	12月	1月	平均																																																																																		
発信回数	5	11	8	7	7.8																																																																																		

<p>[プロセス評価の評価基準]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>評点</th> <th>評価基準</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。</td> </tr> </table>	評点	評価基準	5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	<p>[達成評価の評価基準]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>評点</th> <th>評価基準</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>目標を下回り、成果よりも課題が多かった。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>目標を大きく下回り、成果が認められなかった。</td> </tr> </table>	評点	評価基準	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	<p>[総合評価の評価基準]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>評点</th> <th colspan="2">評価基準</th> </tr> <tr> <td>5</td> <td>100%以上の達成度</td> <td>十分に目標を達成できた。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>80%以上100%未満の達成度</td> <td>概ね目標を達成できた。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>60%以上80%未満の達成度</td> <td>ある程度目標を達成できた。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>40%以上60%未満の達成度</td> <td>あまり目標を達成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>40%未満の達成度</td> <td>目標を達成できなかった。</td> </tr> </table>	評点	評価基準		5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。
評点	評価基準																																											
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。																																											
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。																																											
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。																																											
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。																																											
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。																																											
評点	評価基準																																											
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。																																											
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。																																											
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。																																											
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。																																											
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。																																											
評点	評価基準																																											
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。																																										
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。																																										
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。																																										
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。																																										
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。																																										